

龍穩寺(入間郡越生町)









ここが太田道真・道灌親子が再建したという龍穩寺



正面が山門



左手前方に越生七福神の看板がある/ここは毘沙門天とある









境内側から見る



現在の山門は経蔵・熊野社とともに大正二年の火災を免れた天保十二年(1842年)再建のものという











江戸城外濠の石(江戸城外濠に架かる神田橋橋台に使用されたものを、首都高速道路開設の際、間組により取り外され、日高町
榆木新井巧二氏の好意によって寄贈されたものと記されている)





龍りゅう 穩おん 寺じ

所在地 越生町大字龍ヶ谷

龍穩寺は、永享の頃（一四二九～一四四一）に將軍足利義教が上杉持朝に命じて尊氏以来の先祖の冥福と戦乱に果てた人々の霊をとむらうために創立したものとされる。しかし、その後兵火にかかったので、文明四年（一四七二）に太田道真、道灌父子によって再び建て直された。

天正十八年（一五九〇）には豊臣秀吉から御朱印百石を受け、次いで慶長十七年（一六一二）には徳川幕府から、曹洞宗の関東三か寺を命ぜられ、国内二十三か国の曹洞宗の寺院の世話をした。また、江戸に寺地を賜わり住職はそこに常在して公務を勤めたという。

宝暦二年（一七五二）に火災によって堂塔を焼失し、天保十二年（一八四二）に再建した。しかしながら大正二年の火災によって、山門、経蔵、熊野社を残して全焼し、現在ある本堂は戦後再建したものである。

昭和五十八年三月

埼玉 県



龍穩寺縁起

龍穩寺は、... 似て... から小永平寺と云わ...
今からおよそ十二百年... 山伏や修験道の行者たち... 衰微し永享二年(一四三〇年)に至り足利六代將軍義教が鎌倉時代以後、関東における敵味方の戦死者の菩提を弔うたの、関東管令上杉持朝、(初代の川越城主に命じて義教が日頃帰依している無極禪師(児玉党・越生氏出身)を請じて関東第一世として関東曹洞宗第一の道場とした。のち、うち続く兵乱のため荒廢し第三世兼叟禪師に至って太田道真道灌父子ともに義教の意志を継承しまた日頃より帰依する泰史和尚のために再建した。以後天下の鬼道場として一世を風靡し多くの修行僧魂胆を寒からしめた。

かかる故に天正十八年(一五九〇年)豊臣秀吉より百石の御朱印寺額山付約三百町歩現在の大字龍ヶ谷の全部を含むの寄進をうけ、慶長十七年(一六二二年)徳川家康より曹洞宗法度の制定を命ぜられ、関東三大寺龍穩寺、大中寺(栃木県)総寧寺(千葉県の筆頭として活躍し、寛永十三年(一六三六年)江戸幕府の寺社奉行諮問席に任せられ、格式十一ヶ石をもつて遇せられた。而して江戸には別師(現在の東京南麻布イラン大使館と云へられ歴代の住職は幕府將軍によつて決定せられ、大本山永平寺(福井県)に自動的に昇住した。現在末寺七十ヶ寺全国に拡がっている。

しかるに惜しいかな明治維新の改革に際して寺額はずべて没收され、その後の廢仏棄教令(神仏分離令)にも従来の特権は召しあげられ、その上大正二年(一九一三年)諸堂焼失の悲運におき、昔の石影は全く失うに至つた。しかも当寺はこのように城主や將軍家によつて保護せられ、修行寺とし大名寺として發展して来たがために当初から檀家はもたなかつた。しかし、近年に至つてささやかながらも徐々に復興の兆が見えつゝ、昨今であり、かつて読売新聞埼玉版の武蔵野は生きている」 武井小治 実篤 撰修に左のごとく紹介された。

「武蔵野のはては新太田道灌公評かに... 伊勢原市糟屋にて父... 先立て父... 晩年の父道真によつて... 墓と共に武蔵野の風に吹かれています。法名は香月院野苑道灌大居士である。

龍穩寺六十四世住職
小林卓士謹書

ここにも江戸城外濠の石があった(江戸城外濠に架かる神田橋橋台に使用されたものを、首都高速道路開設の際、間組により取り外され、日高町榎木新井巧二氏の好意によって寄贈されたものと記されている)



さまざまな石造物があった



太田道灌像







正面は本堂/戦後の再建



前方の石段を登ると太田道真・道灌親子の墓がある



本堂の右手は庫裡











庫裡/明治初期の遺構を残した民家を利用しているという



この庫裡は明治初期素朴豪壯
に作られた民家で資金不足のため
工事中止され放置されていたのを
大正初期に当寺に移築完成した
民家が洗練された美的極致に達
したのは明治初期と云う。
美しい木目の太い檼の大黒柱を
たて天井にひとかかえ以上の梁が
従横に二重の差鴨居梁
(二尺以上)を用いた民家の重厚な
好みがよく出ている。
善男善女の労力奉仕がなければ
当寺でも工事中止となったであら
う明治初期民家の遺構を残した
重要建築物である。

寄贈

堂山田島芳二
毛呂山新井安司

さて、墓所へ行ってみよう









道灌は江戸城築城のほか川越城・岩槻城・鉢形城の修築に携わっていると記されている(だが、実際は道真が主に行ったという)



埼玉県教育委員会



これが太田道真・道灌親子の墓





墓所から見る風景/前方下は本堂・庫裡





経蔵も見える



鐘樓



この銅鐘は埼玉県の文化財に指定されており、竜頭(鐘を懸ける部分)が朝鮮鐘の特徴を備えているという(1672年鑄造)



埼玉県指定文化財

龍穂寺銅鐘

〔種別・種類〕 有形文化財 工芸品

〔指定年月日〕 昭和四十八年三月九日

寛文十二年(一六七二)に、第二十五代住職愚門和尚(のち永平寺三十二世)が発願し、鑄工堀山城守清光が鑄造した。

この銅鐘の特徴は鐘を懸ける竜頭にある。一般的な和鐘の場合には背中合わせに二頭の竜を置くのに対して、一頭の竜に旗挿という筒を配する朝鮮鐘の特徴を備えている。竜頭以外の部分は基本的な和鐘の様式を踏襲している。

鐘身には寺の沿革と銅鐘新造の経緯が記されている。

細身で形の整った優美な鐘で、銅鐘の時代考証上貴重な作品である。

高さ 一六六・七センチメートル

口径 七八・〇センチメートル

平成三年三月三十日

埼玉県教育委員会
越生町教育委員会
龍穂寺



禁煙

山菜
取るこ
禁





経蔵/1830年代に再建のもの



埼玉県指定文化財

龍穩寺經藏 一棟

(種別・種類)有形文化財 建造物
(指定年月日)昭和五十八年三月二十二日

第五十六代住職道海和尚が天保年間(一八三〇〜四〇)に建立。唐破風向拝付土蔵造り。屋根は方形で銅板葺きである。外壁に道元禪師一代記の彫刻。向拝天井に酒井抱一による龍の絵が描かれている。内部には一切経を納める輪蔵と、輪蔵の創始者といわれる傳大士の像がある。県内には、これだけの規模と構造を持ち、傳大士の像をそなえた輪蔵を持つた經藏は他に類例がなく、本県の建築史上貴重な建造物である。



昭和六十一年三月三十一日

埼玉県教育委員会

越生町教育委員会

龍穩寺







経蔵（経堂）

当山五十六世道海和尚が天保年中に創立
屋根は瓦葺銅板葺き方形で、唐破風をつ
け、土蔵造りである。

内部は八角形の転輪蔵造りで、鉄眼の黄
檨版一切経二千冊七十余巻の経文を納め
中央に傳大士と脇立両童子の三体を、四隅
に梵天、帝釈、持国、増長、広目、多聞、
密迹、金剛の八代神将を安置す。

天井は格天井にして四季の花鳥山水と壁
に天女を描き、飛龍は酒井抱一が描けしもの。
南北の彫刻は道元禅師が宗国より帰国
する時の情景で、関東了は成田山、鏝阿寺等
にあり貴重な建造物である。

龍徳寺第六十四世 卓苗代













参考ホームページ

http://blogs.yahoo.co.jp/lunatic_rosier/57066828.html

<http://frett.com/abuabu/bike/map/shot/ryuonij/ryuonij.html>

<http://keny72.blog.fc2.com/blog-entry-147.html>



熊野神社(龍穩寺境内にある)

村社熊野神社とある/正面は一の鳥居



ここは二の鳥居



鳥居の支柱は中間から下がコンクリート造となっていた



拝殿





天保十五年(1844年)に再建された拝殿と本殿がつながった権現造りの社殿/越生町の文化財



左手が本殿





本殿



本殿



右手が拝殿



本殿背面





本殿



拝殿



本殿





参考ホームページ

<http://www.mikumano.net/zsaitama/ogose2.html>

http://www.town.ogose.saitama.jp/div_gakumu/kyouikuka/bunkazai/shitei/shitei-bun/kumano-syaden.htm

<http://blogs.yahoo.co.jp/maruchan1902/17196127.html>